

令和4年度
教育に関する事務の管理及び執行の
状況の点検及び評価報告書
(令和3年度事業分)

令和4年9月
二本松市教育委員会

目次

I	点検及び評価の概要	1
1	はじめに	1
2	評価の進め方	1
3	学識経験者の知見の活用	2
4	議会への報告等	2
5	参考資料	3
II	点検及び評価の結果	7
1	児童・生徒の確かな学力の向上	8
◆	学力向上対策事業（小学校・中学校）	8
◆	学び合う環境づくり推進事業	9
◆	外国語活動講師派遣事業	10
2	児童・生徒の健やかな体の育成	11
◆	元気な児童生徒育成支援事業	11
◆	学校給食と食育の推進	12
3	児童・生徒の豊かな心の育成	13
◆	読書活動推進事業（学校図書館支援事業）	13
4	教育相談活動の充実	14
◆	教育支援センター管理・運営	14
5	学校と家庭、地域の連携による教育	15
◆	放課後子ども教室推進事業	15
6	新しい時代の教育に向けた教育環境の整備	16
◆	G I G Aスクール整備事業	16
7	安全・安心で質の高い教育環境の整備	17
◆	小・中学校の耐震化	17
◆	小・中学校の適正規模・適正配置	18
◆	公立幼稚園の適正配置	19
8	家庭の経済状況や地理的条件への対応	20
◆	スクールバス運行事業	20
◆	遠距離通学費助成事業	21
◆	高等学校通学費助成事業	22
9	多様なニーズに対応した教育機会の提供	23
◆	（福島県）特別支援学校整備事業	23
◆	児童生徒の介助員の配置	24
10	図書館利用環境の整備	25
◆	「子ども読書活動推進計画」の推進	25
11	スポーツ活動の推進	26
◆	総合型地域スポーツクラブの活動支援	26
12	地域文化財保護・継承	27
◆	二本松城跡調査事業	27
13	文化団体の活動支援	28
◆	文化団体の活動支援・文化団体の育成	28
III	学識経験者の意見	29

I 点検・評価の概要

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検報告を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することとされております。

このため、二本松市教育委員会は、令和3年度教育行政重点施策の主要事業への取り組み状況について点検評価を行い、学識経験者の意見を付して、報告書にまとめるものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 評価の進め方

① 点検及び評価する事務事業

二本松市教育振興基本計画に掲げられた重点的事業のうち、21事業としました。（5～6ページ計画体系図参照）

② 点検及び評価の視点

PDCA（計画Plan→実行Do→評価Check→改善Action）のサイクルを活用し、事業の目標や見込まれる成果に基づき令和3年度に実施した事業について、その内容やめざす指標の達成状況などを踏まえた評価を行い、次年度以降の方向性を定めています。

③ 教育委員会による自己評価

○ 評価シートの作成

事業ごとに、【目標に対する進捗状況】及び【費用対効果】に対する評価を行い、事業の成果と課題を明らかにしたうえで、それぞれ4段階の評価（A：順調 B：概ね順調 C：改善の必要あり D：休止、廃止 ー：評価結果なし）を行い、それを踏まえた【事業の方向性】を定めています。

3 学識経験者の知見の活用

外部の学識経験者で構成する二本松市教育事務点検評価検証委員会を設置し、教育委員会の自己評価及びその評価方法に対する評価や、今後の教育行政に向けての意見を伺います。

【二本松市教育事務点検評価検証委員会委員】

(敬称略)

氏 名	経 歴 等
佐 藤 彰 男	前 二本松市体育協会長
村 松 香 里	前 東和中学校PTA会長
青 田 誠	元 福島県教育庁県中教育事務所長
日下部 善 己	現 二本松市文化財保護審議会委員

4 議会への報告等

点検及び評価の結果を報告書にまとめ、市議会へ報告するとともに、市民に対し公表を行います。

① 議会への報告

毎年9月

② 市民への公表

市のウェブサイトに掲載いたします。

5 参考資料

二本松市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価の実施に関する要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定により行う教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（以下「点検及び評価」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 点検及び評価の対象は、二本松市長期総合計画等に掲げられた施策を推進する事務事業（以下「事務事業」という。）のうちから教育委員会が選択するものとする。

(点検及び評価の時期)

第3条 点検及び評価は、年度終了後速やかに行うものとする。

(点検及び評価の主体)

第4条 点検及び評価は、教育委員会が、当該事務事業を企画立案し遂行する立場から行うものとする。

(点検及び評価の視点)

第5条 点検及び評価は、必要性、効率性、有効性その他の事項を視点として行うものとする。

(検証委員会の設置)

第6条 点検及び評価を行うにあたり、客観性を確保するため、二本松市教育事務点検評価検証委員会（以下「検証委員会」という。）を設置する。

2 検証委員会は、点検及び評価について意見を述べることができる。

(検証委員会の組織)

第7条 検証委員会は、委員4人以内で組織する。

2 検証委員会の委員は、教育に関し学識経験を有する者のうちから教育委員会が委嘱する。

3 委員の任期は、1年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第8条 検証委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、会議の議長として議事を整理し、検証委員会の事務を総理する。

3 委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

(市議会への報告等)

第9条 点検及び評価の結果は、毎年9月に市議会に報告するものとする。

2 前項の報告の後に、点検及び評価の結果を市民に対し公表するものとする。

(補則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、点検及び評価の実施に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成21年1月26日から施行する。

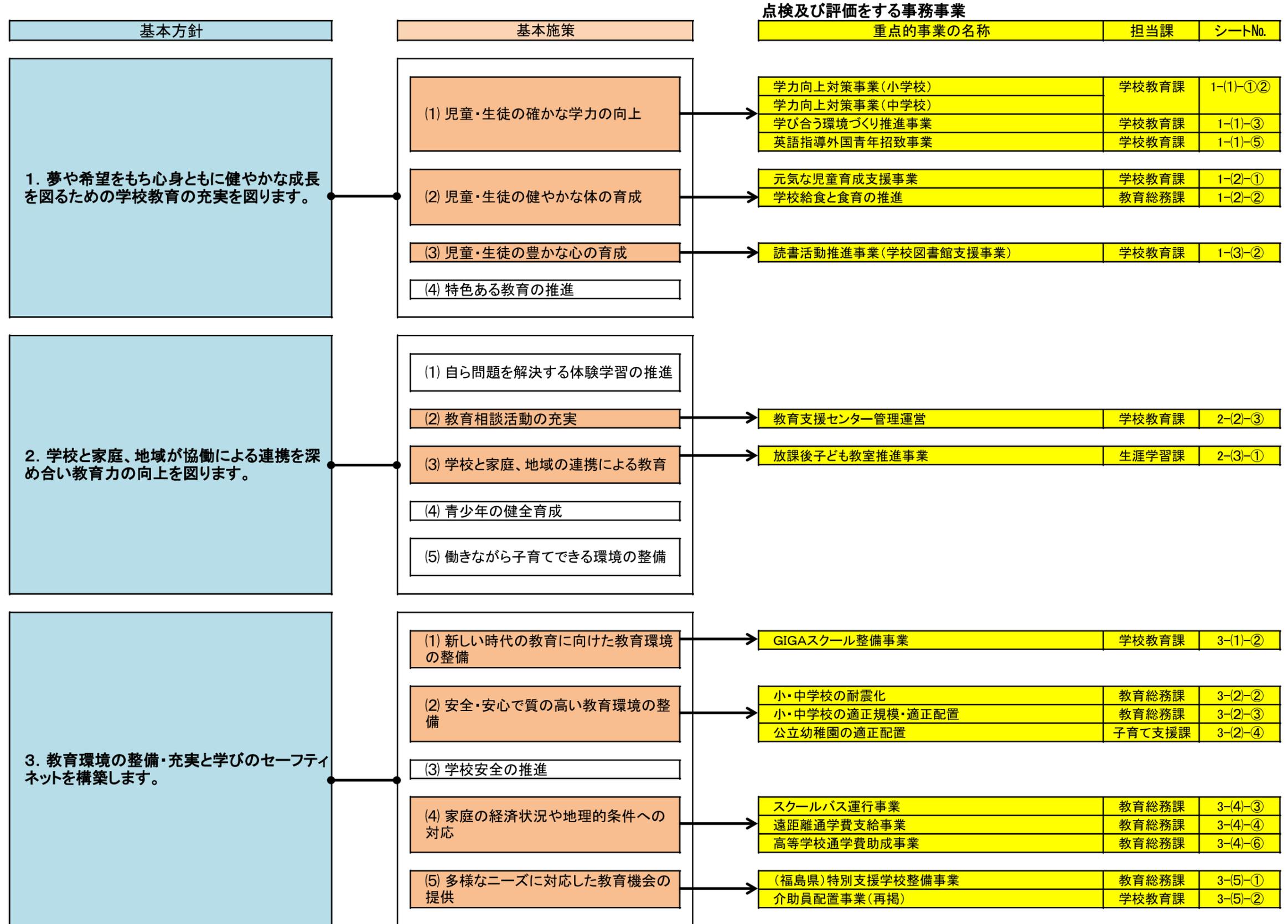
(経過措置)

2 第9条第1項の規定にかかわらず、平成20年度における市議会への報告は、平成21年3月とする。

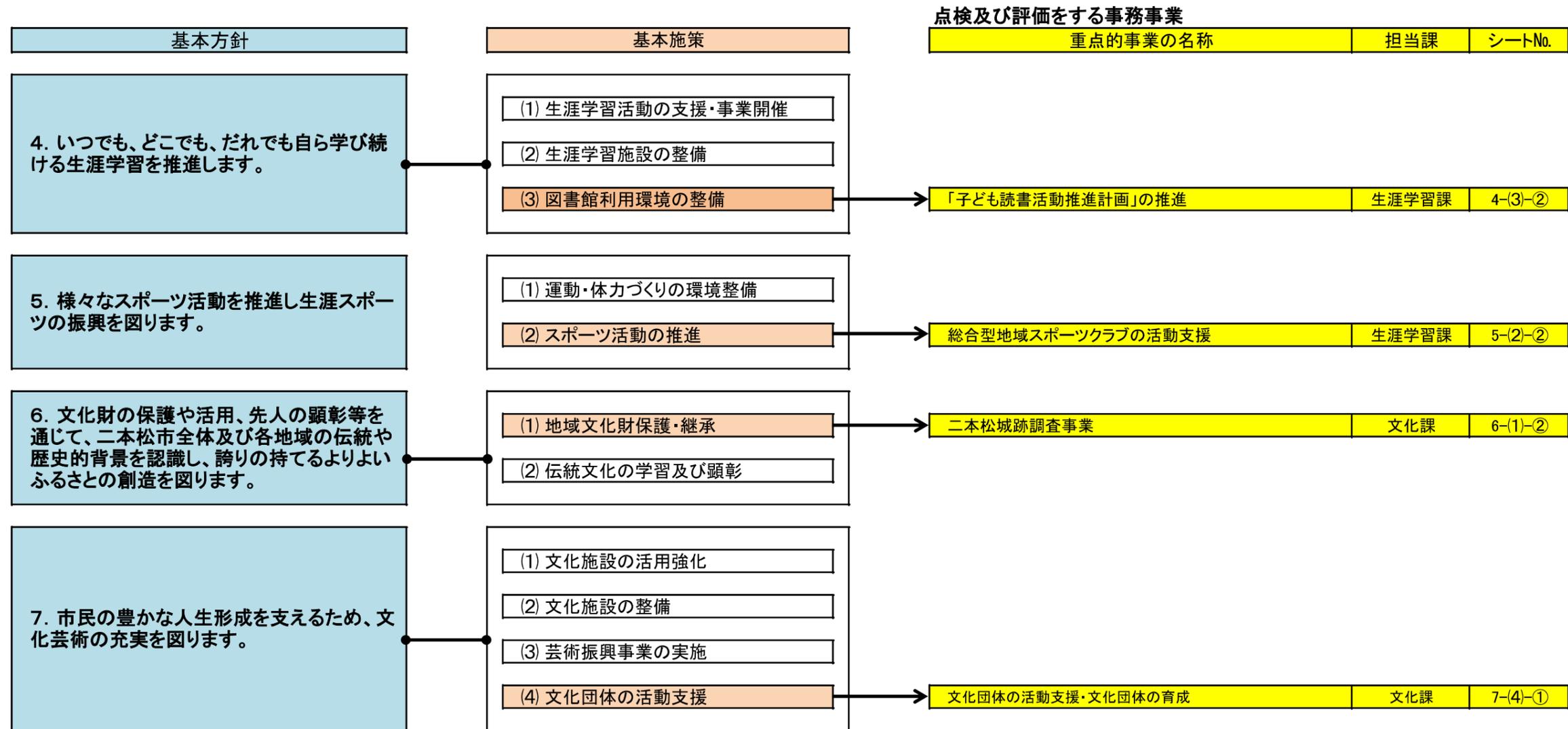
附 則 (平成27年3月31日教委告示第1号)

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

◆ 二本松市教育振興基本計画(第2期:令和3年度～令和12年度)の体系 ◆



◆ 二本松市教育振興基本計画(第2期:令和3年度～令和12年度)の体系 ◆



Ⅱ 点検及び評価の結果

○二本松市教育振興基本計画に掲げられた13の基本施策の21重点的
事業について、

評価シート4段階の評価

A：順調

B：概ね順調

C：改善の必要あり

D：休止、廃止

を行い、事業の成果と課題を明らかにし、次年度以降の方向性を定め
ました。

○点検及び評価を行った13の基本施策は以下のとおりです。

- 1 児童・生徒の確かな学力の向上
- 2 児童・生徒の健やかな体の育成
- 3 児童・生徒の豊かな心の育成
- 4 教育相談活動の充実
- 5 学校と家庭、地域の連携による教育
- 6 新しい時代の教育に向けた教育環境の整備
- 7 安全・安心で質の高い教育環境の整備
- 8 家庭の経済状況や地理的条件への対応
- 9 多様なニーズに対応した教育機会の提供
- 10 図書館利用環境の整備
- 11 スポーツ活動の推進
- 12 地域文化財保護・継承
- 13 文化団体の活動支援

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-(1)-①②

事務事業名	学力向上対策事業(小学校・中学校)				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. 夢や希望をもち心身ともに健やかな成長を図るための学校教育の充実を図ります。
基本施策	(1) 児童・生徒の確かな学力の向上

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	小学校では、配置校の実情に応じた学年・教科において、中学校では数学科・英語科において非常勤講師を活用したチーム・ティーチングを実施し、子ども一人ひとりに寄り添い基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。また、各種調査により、一人ひとりの実態を把握し効果的な指導及び各学校の学力向上マネジメントに活用する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	小学校では8名中学校では7名、合計15名の学力向上非常勤講師を配置し、児童生徒一人一人に寄り添った指導を行い学力の伸長を図る。また、小学校1・2年は国語・算数、3～6年は国語・社会・算数・理科、中学校1・2年は国語・社会・算数・理科・英語の学力検査を実施する。また、小学校2・4・6年、中学校1・3年において知能監査を実施する。結果について、各学校で分析し、課題を把握して学力向上策を実施する。 (R3事業費: 36,198千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	2019(R元)を基準とした全国学力・学習状況の比較		指標の単位	%	
指標の説明	当該年度の全国との差－2019(R元)の全国との差(算数・数学)				
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値	小・中+0.2	小・中+0.4	小・中+0.6	小・中+0.8	小・中+1
実績値	小-2.6中+0.6	※小+0.4中+1.4			
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	学力向上非常勤講師の配置にあたっては、学力向上において特に課題のある学校に配置した。各学校では、課題に応じ、授業におけるT2による指導、習熟度別指導等、多様な学習形態による活用がなされた。また、授業外においても個別指導や個に応じた教材作成の支援等がなされ、一人ひとりの学習内容の理解に効果が見られた。				所管課評価 B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	
本市が目指す「夢中になって学ぶ子ども」の育成を図るためには、一人一人の学びを成立させる授業、下位とともに上位を伸ばす足踏みさせない孤立させない授業を構築することが求められる。各学校においては、学力の二極化も見られることから、今後ますます一人ひとりの実態に寄り添った指導が必要であり、学力向上非常勤講師の配置が望まれている。また、今後複式学級の増加が予想されることから、学年に応じた学びやすい環境を整え、一人一人にきめ細かな対応ができるよう複式解消補正の増員が必要である。	

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-(1)-③

事務事業名	学び合う環境づくり推進事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. 夢や希望をもち心身ともに健やかな成長を図るための学校教育の充実を図ります。
基本施策	(1) 児童・生徒の確かな学力の向上

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	予測を超えた社会発展、変化に対応し、生き抜く資質・能力を身に付けさせるため、児童生徒が学ぶ意義を実感でき、学びやすく、学びがいのある学校をつくる管理職のマネジメント力、教員の授業力の向上を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	市内小・中学校の課題解決、とりわけ、「主体的・対話的で深い学びの実現(教員)」 「管理職のマネジメント力の強化」に向けて、大学、教育センター、地域の専門講師等を招聘し、市主催研修会、各校授業研究会、管理職研修、柔道外部講師派遣を実施する。 (R03事業費:小1,532千円、中1,841千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	学校に行くのが楽しいと思う児童生徒の割合		指標の単位	%	
指標の説明	全国学力・学習状況調査における児童・生徒質問紙項目				
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値	小学校6年95% 中学校3年90%	小学校6年95% 中学校3年90%			
実績値	小学校6年87.7% 中学校3年86.0%				
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	感染症拡大の状況が続いたが、授業改善研修会、管理職研修会等、極めて重要と考える研修会は延期の対応をしながらの実施に努めた。また、大学教授等を招聘予定であった「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた各学校主催の授業研究会については、学校教育課指導主事等を指導助言者とした小規模な開催に努め、中止とならないように配慮した。授業研究会の継続実施に努めたことにより、教員の授業力向上、校内授業研究の質的な改善を図ることができた。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	管理職が、コロナ禍等も含めた、予測困難な時代に即応するマネジメントの在り方について理解を深めることができるように支援していくことが重要である。また、GIGAスクール構想の具現による一人1台端末を生かした学習指導等を含めて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を継続して支援していくことが必要である。今後も、大学教授等の有識者の指導助言はもちろん、市教委の指導主事等が指導助言する機会を設定し、授業改善の日常的な取組を支援していきたい。なお、感染症対策をしながら、児童生徒の学びを止めないために、外部講師を招聘しての授業研究会や、柔道外部講師派遣事業についても実施方法を工夫しながら継続する。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-(1)-⑤

事務事業名	外国語活動講師派遣事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H21

1. 事業概要

基本方針	1. ともに学び高め合い、心身ともに健やかな成長ができるよう学校教育の充実を図ります。
基本施策	(1) 児童・生徒の確かな学力の向上

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	小学校3, 4年の「外国語活動」、小学校5, 6年の「外国語科」について外国人講師を派遣し、活動の充実を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	小学校3, 4年の外国語活動35時間の内25時間、5, 6年の外国語科70時間の内50時間に、外国語活動講師を派遣し、チームティーチングで授業を行っている。 (R03事業費: 小7,966千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	小学校3, 4年生「外国語活動」では、児童が歌やチャンツ、ゲーム等により外国語に慣れ、外国語でのコミュニケーションが積極的にとれるようになった。5, 6年生「外国語科」では、「外国語を読む・聞く・話す(やり取り)・話す(発表)・書く」の領域別につける、記録に残す「評価」のあり方に課題がある。ぜひ、今後、リスニングテスト、スピーキングテスト等のパフォーマンス評価について外国語活動講師を活用していきたい。				所管課評価 B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	英語の学習は、令和2年度より3, 4年「外国語活動」35時間、5, 6年「外国語科」70時間が全面実施となった。今後も担任と外国語活動講師とが、コミュニケーションのよいモデルになるよう、外国語活動講師の活用を図っていく。そのためにも、各学校と外国語活動講師、派遣先のイングリッシュスクールと教育委員会との連携、支援体制を確立する必要がある。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-(2)-①

事務事業名	元気な児童生徒育成支援事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. 夢や希望をもち心身ともに健やかな成長を図るための学校教育の充実を図ります。
基本施策	(2) 児童・生徒の健やかな体の育成

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	地域の自然との関わりの深いスキー教室を実施することで、児童生徒が生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を養う。
------------------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	小学校4～6年生、中学校1年生が、市内スキー場においてスキー教室を実施する。 (R3事業費:小8,587千円、中4,097千円)
------------------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	運動に関わり全国平均を上回ることができた種目数					指標の単位	割
指標の説明	全国体力・運動能力、運動習慣等調査／各学校調査による実績値						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	4割の種目で全国平均を上回る	5割の種目で全国平均を上回る	6割の種目で全国平均を上回る	7割の種目で全国平均を上回る	8割の種目で全国平均を上回る		
実績値	3割						
達成度(%)	75						
指標名②						指標の単位	
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値							
実績値							
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり						
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった						
【説明】	令和3年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、小学校3校が中止となった。児童生徒が市内にある豊かな自然に触れながら、冬季のスポーツを楽しむ行事の意義は大きい。ただ、コロナ禍だからこそその体力向上に対する事業の検討は今後も模索が必要である。					所管課評価 B	

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	
本事業のみで、地域のスポーツに親しむこと、生涯にわたるスポーツライフの基礎としての健康の増進及び体力の向上を図ることが難しい。昨年度から開始した健康マネジメントプロジェクトや各学校における体力向上計画、健康教育計画、肥満指導計画等の体力・健康に関する計画と取組等に関連させながら体力の向上と、本市の課題でもある肥満解消に向けた取組を行っていくことが必要である。	

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-(2)-②

事務事業名	学校給食と食育の推進				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H20

1. 事業概要

基本方針	1. 夢や希望をもち心身ともに健やかな成長を図るための学校教育の充実を図ります。
基本施策	(2) 児童・生徒の健やかな体の育成

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	子どもたちが生涯を通じて健康な生活を送ることができるように学校給食と食育活動を通して望ましい食習慣の形成を図る。また郷土に関心を寄せる心を育むため地域食文化の継承や地場産物の活用を進める。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<ul style="list-style-type: none"> ・食育パンフレットの発行(4,500枚) 50千円 ・栄養士(栄養教諭)による食育授業等 安達給セ 36回 東部給セ 35回 計 71回 ・栄養士(栄養教諭)による給食訪問等 安達給セ 165回 東部給セ 3回 計 168回 ・県地産地消推進事業補助金(1回の給食で県内産食材使用率が8割以上で対象) 安達給食セ2回、東部給食セ2回 計 4回 ・県食育活動費補助(地産地消に関連した食育活動の実施) 小浜中(地元産品を使用した調理実習) 計 2回 岩代中(地元産品を使用した調理実習) 計 4回
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	朝食摂取率				指標の単位	%
指標の説明	任意の調査日において、朝食を摂取した子どもの割合					
	R03	R04	R05	R06	R07	
目標値	98.1	100.0	100.0	100.0	100.0	
実績値	97.7					
達成度(%)	99.5					
指標名②	誰かと食事(2回)				指標の単位	%
指標の説明	任意の調査日において、一日のうち、朝食と夕食の2回(昼食は含めない)を家族などの誰かと一緒に食べた子どもの割合					
	R03	R04	R05	R06	R07	
目標値	79.3	79.9	80.4	81.0	81.5	
実績値	75.6					
達成度(%)	95.3					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり					
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった					
【説明】	食育について、食育パンフレットの作成や栄養士(栄養教諭)による食育授業の実施などに積極的に取り組んだ。さらに朝食摂取率、誰かと一緒に食事をした割合を高めるために引き続き学校や地域、保護者との連携を進めていく。					所管課評価
						A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	<p>今後も食育パンフレットの作成や食育授業の実施などを継続し、積極的に食育に取り組む。さらに、保護者や家庭に対しても食に関する意識を高めることにつながるような普及、啓発方法を検討していく。</p> <p>また、令和4年度から毎月19日を「食育の日 統一メニュー」とし、市内小中学校で同一の給食献立を提供し、児童生徒の食に対する関心を高める取り組みを行う。(令和4年4月から実施中)</p>

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

1-(3)-②

事務事業名	読書活動推進事業(学校図書館支援事業)				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H27

1. 事業概要

基本方針	1. 夢や希望をもち心身ともに健やかな成長を図るための学校教育の充実を図ります。
基本施策	(3) 児童・生徒の豊かな心の育成

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市内小・中学校に司書又は司書補の資格を有する者、学校図書館でのボランティアを1年以上務めた者を学校図書館司書として配置し、児童生徒の読書活動を推進する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	7つの中学校区に6名の学校図書館司書を配置することにより、学校図書館の一層の充実を図り、児童生徒一人一人の読書習慣の確立と豊かな心の育成に資する。 (R03事業費:小6,775千円、中6,296千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	児童生徒1人当たりの1ヶ月平均読書冊数		指標の単位		冊
指標の説明	毎年実施している「県の読書に関する調査」から算出したもの				
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値		小学校5年7.1冊 中学校2年2.9冊	小学校5年7.7冊 中学校2年3.3冊	小学校5年8.3冊 中学校2年3.7冊	小学校5年9.0冊 中学校2年4.0冊
実績値	小学校5年6.5冊 中学校2年2.5冊				
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	学校図書館司書の配置により、各学校の工夫ある図書館環境の整備、蔵書管理等、学校図書館活性化に向けての取り組みが充実してきた。また図書館司書の活用による読書活動を取り入れた授業推進も多く展開されてきている。一方で令和3年度の平均読書冊数は中学校全体では県平均並であったが、小学校全体では県平均を下回る結果となっている。不読率については、小・中学校ともに県平均を下回り、改善傾向を示している。				所管課評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	学校図書館司書配置の有効性とその効果については、学校現場では認知されているものの、読書活動の推進や読書習慣の定着に向けて、図書館担当者との更なる連携強化を図っていく必要がある。現在、7中学校区の内、6つの中学校区に6人の図書館司書を配置しているが、一人当たり2校から5校の複数校勤務となっていることから、今後は全ての中学校区に配置するとともに、学校数の多い中学校区(一中・安達中)への複数名配置するなど、読書好きの子ども育成に向けて事業を拡大していきたい。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

2-(2)-③

事務事業名	教育支援センター管理・運営				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H29

1. 事業概要

基本方針	2. 学校と家庭、地域が協働による連携を深め合い教育力の向上を図ります。
基本施策	(2) 教育相談活動の充実

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	学校や家庭との連携を図り、不登校児童・生徒一人一人に応じた指導や援助をすることにより、自己肯定感や意欲を高めるとともに、計画的な教育相談を進めることにより、学校復帰並びに進路目標の実現を図る。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	通所者16名(正式通所者12名、体験通所者4名)一人一人の特性に応じて、学習の補充をしたり、多様な体験活動をするなどの適応指導により、自己肯定感を高めたり、集団への適応力、表現力の向上、コミュニケーション能力の向上を図ることができた。その結果、完全復帰に至った者3名、復帰傾向2名、また、中学3年生5名全員が高校進学という目標を実現することができた。また、支援センターで305件(昨年並み)、SSW単独で414件(昨年度比105件増)の相談を受け、児童生徒、保護者、学校の悩みに寄り添った相談業務を充実させることができた。(R3事業費:10,938千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	不登校の発生率					指標の単位	%
指標の説明	問題行動、不登校等調査						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	小・中学校とも0%						
実績値	小学校0.80% 中学校4.41%						
達成度(%)							
指標名②	いじめ解消率					指標の単位	%
指標の説明	問題行動、不登校等調査						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	100%						
実績値	小学校90.5% 中学校93.5%						
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり						
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった						
【説明】	指導員の増員により、今まで対応できなかった、引きこもり傾向のある児童生徒への家庭訪問などの対応や通所が難しい児童生徒のための訪問指導が可能となった。また、SSWの勤務日数の増により、相談件数も増え、児童生徒、保護者、学校の悩み解消に向け関係機関との連携を図りながら充実した対応をすることができた。						
	所管課評価						
	A						

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	不登校発生を抑制するための学校への指導援助を充実するとともに、指導員の増に伴い引きこもり傾向や通所が難しい児童生徒の訪問指導をさらに充実していく必要がある。また、不登校の要因が発達障がいや家庭環境の悪化などに起因するなど複雑化しており、保護者や学校の多様なニーズにこたえる必要がある。そのため、相談機能の充実を図るため、勤務日数は徐々に増えているが、資格を有したSCやSSWの常時配置を計画する必要がある。適応指導教室については、遠距離のために通所が難しい児童生徒もいることから、分室設置やそれに伴う指導員の配置も考えていく必要がある。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

2-(3)-①

事務事業名	放課後子ども教室推進事業				
担当課	生涯学習課	担当係	生涯学習係	事業開始年度	平成18年

1. 事業概要

基本方針	2. 学校と家庭、地域が協働による連携を深め合い教育力の向上を図ります。
基本施策	(3) 学校と家庭、地域の連携による教育

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	学校や地域、家庭が連携し、放課後に子どもたちが安全な環境の中で学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を体験できる場の充実を図ることで、子どもたちの豊かな人間性や社会性を育む機会とする。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	地域住民やボランティアとともに、宿題や読み聞かせ、工作、スポーツ等の活動を実施した。 【教室数】6教室(あだち・いわしろ・とうわどんぐり・おおだいら・すぎた・いしい) 【開催回数】82回(延べ) 【参加者数】1,891名(延べ) 【教室運営経費】 ・報償費1,009千円 ・需用費 205千円 ・役務費 93千円 【運営委員会経費】 ・報償費 16千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	放課後子ども教室数					指標の単位	教室
指標の説明	開設している放課後子ども教室の数						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	6	6	6	6	6	6	
実績値	6						
達成度(%)	100%						
指標名②						指標の単位	
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値							
実績値							
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】	目標達成						
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった						
【説明】	放課後の時間を活用し、子どもたちが地域住民と交流しながら有意義な時間を過ごすことができた。					所管課評価	
						A	

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	各教室の地域性や特色を活かし、学校との連携を更に図りながら、今後も事業を推進していく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(1)-②

事務事業名	GIGAスクール整備事業				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	R2

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(1) 新しい時代の教育に向けた教育環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	令和2年度からGIGAスクール構想により、児童生徒・教職員にタブレットを整備した。その整備に伴う通信料を確保するとともに保守管理、研修を行い、児童生徒の学びの充実や情報活用能力の育成を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	令和2年度からのGIGAスクール構想により整備したタブレットにより、個別最適な学びの充実に向けて、より一層教育効果を高めるための通信整備・保守管理、教職員向けのタブレットを用いた研修を行い、授業の中で効果的な活用を図る。 (R03事業費:小12,434千円、中6,750千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	一人1台のタブレット整備及びその通信、保守管理等を行ったことにより、主体的・対話的で深い学びの実現及び個別最適な学びなど、児童生徒の学びの充実につながっている。教職員への研修により、タブレットを活用した授業を行うことができ、指導力の向上にもつながった。今後は、更なる学びの充実に向け、通信環境の整備と機器等の活用の促進を図ることができるようになる必要がある。				所管課評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	今後も、児童生徒の主体的・対話的で深い学びの実現及び個別最適な学びを充実させるため、また、児童生徒の情報活用能力や思考力・判断力・表現力等の更なる育成に向け、通信環境の整備やタブレットと電子黒板等のICT機器が有機的に機能した効果的な活用が図られるようにしなければならない。そのために、各学校へ配置されているICT支援員による児童生徒及び教職員への支援等を継続していく必要がある。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(2)-②

事務事業名	小・中学校の耐震化				
担当課	教育総務課	担当係	文教施設係	事業開始年度	H28

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(2) 安全・安心で質の高い教育環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	子どもたちが良好な環境で学ぶことができるように屋内運動場における特定(吊り天井並びに非構造部材)の落下防止対策を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	小中学校の屋内運動場非構造部材耐震化に伴う工事を行った。 <小学校> ・安達太良小 屋内運動場非構造部材耐震化 ・・・(工事)65,065千円, (工事監理)2,255千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	屋内運動場非構造部材の耐震化					指標の単位	%
指標の説明	吊り天井等の落下防止工事						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	20.0						
実績値	20.0						
達成度(%)	100.0						
指標名②							指標の単位
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値							
実績値							
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり						
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった						
【説明】	計画通り年度内完了した。						所管課評価
							A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	防災機能強化事業において、屋内運動場の非構造部材(吊り天井)の落下防止対策として耐震化工事を進めていくこととする。 その他の非構造部材については、耐震化工事(修繕)の先例などを参考としながら、対応策について検討していく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(2)-③

事務事業名	小・中学校の適正規模・適正配置				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	R元

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(2) 安全・安心で質の高い教育環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	少子化に伴う児童・生徒数の減少に対応するため、小中学校の適正規模及び適正配置について検討する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	児童・生徒数の減少に対応する教育環境の整備及び学校教育の充実を目的として、市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置並びにこれらに関連する事項を調査検討し、その結果を市教育委員会へ答申する。
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	適正規模・適正配置に基づき具体的な再配置の検討を始めた学校数(23校中)					指標の単位	校
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	5	5	5	5	5		5
実績値	0	0	0	0	0		0
達成度(%)	0	0	0	0	0		0
指標名②						指標の単位	
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値							
実績値							
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない						
【費用対効果】	費用なし						
【説明】	令和元年度から令和2年度まで調査検討会は5回開催。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響等で検討会の開催はできなかったが、次年度以降の方向性について明確にすることができた。						
	所管課評価						
	B						

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	<p>検討会委員の異動等により、令和4年度から新たに委員を委嘱し、具体的な検討を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度：調査検討会(適正規模の検討、市教育委員会への答申)方針の決定 ・令和5年度：調査検討会(適正配置の検討、市教育委員会への答申)方針の決定 ・令和6年度～令和7年度：住民説明会、統廃合に向けた準備など ・令和8年度以降：統廃合の実施

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(2)-④

事務事業名	公立幼稚園の適正配置				
担当課	子育て支援課	担当係	保育所幼稚園係	事業開始年度	R2

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(2) 安全・安心で質の高い教育環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	入園児の少ない幼稚園の適正配置や認定こども園への移行を検討することで安全・安心で質の高い教育環境を確保できる効果が見込まれる。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	令和2年度に教育委員会が定めた「二本松市幼稚園の休園基準」に基づき、入園申込が5人未満となった施設は休園を決定し、公立幼稚園の適正配置を図る。
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	公立幼稚園の休園数					指標の単位	施設
指標の説明	休園する公立幼稚園の数(全9園)						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	—	—					
実績値	4	5					
達成度(%)	—	—					
指標名②						指標の単位	
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値							
実績値							
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】						目標達成	
【費用対効果】						費用なし	
【説明】	休園基準に基づき、令和2年度から「はらせ幼稚園」と「小浜幼稚園」、令和3年度から「塩沢幼稚園」と「大平幼稚園」、令和4年度から「川崎幼稚園」を休園とし、公立幼稚園9園のうち5園を休園としている。					所管課評価	
							A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	二本松市幼稚園の休園基準に基づき継続して実施する。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(4)-③

事務事業名	スクールバス運行事業				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(4) 家庭の経済状況や地理的条件への対応

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	公共交通を利用できない遠距離通学の児童・生徒を支援するため、スクールバス等を運行し、通学時の安全及び教育の機会均等を確保する。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	スクールバス、スクールタクシーの運行を行った。 ○小学校 ・バス運行委託料 44,837千円 (杉田小、川崎小、小浜小、新殿小、旭小) ・タクシー借上料 1,837千円 (石井小、洪川小、新殿小) ・大玉村スクールバス運行負担金 59千円 ○中学校 ・バス運行委託料 26,342千円 (岩代中) 合計 73,075千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	評価結果なし				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	必要な地域にスクールバス等を運行し、児童生徒の通学の便の確保に成果を上げており、通学時の安全及び教育の機会均等が確保された。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	今後も、通学時の安全及び教育の機会均等を確保するため、地域の実情に応じたスクールバス等の運行を行う。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(4)-④

事務事業名	遠距離通学費助成事業				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(4) 家庭の経済状況や地理的条件への対応

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	保護者の負担を軽減するとともに、通学時及び教育の機会均等を確保するため、定期券または通学費の支給を行う。
------------------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<p>通学距離が4km以上の児童又は6km以上の生徒に対し、バス定期券の現物支給、またバスが利用できない生徒には年額32,000円の通学費助成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校バス定期券助成 102名 5,448千円 ・ 中学校バス定期券助成 43名 5,670千円 ・ 中学校通学費助成 10名 320千円 <li style="text-align: center;">計 155名 11,438千円
------------------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	評価結果なし				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	遠距離通学児童生徒の保護者に対し通学費の助成を行うことで、保護者の負担が軽減され、通学時の安全及び教育の機会均等が確保された。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	引き続き保護者の負担を軽減し、通学時の安全及び教育の機会均等を確保するため、継続して実施する。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(4)-⑥

事務事業名	高等学校通学費助成事業				
担当課	教育総務課	担当係	総務係	事業開始年度	H17

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(4) 家庭の経済状況や地理的条件への対応

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	高等学校に遠距離通学する生徒をもつ保護者の経済的負担を軽減するため、通学費の支給を行う。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	自宅から学校までの道のりが10km以上ある生徒、又はJRを利用することが合理的と判断される場合であって自宅から最寄りの駅までの道のりが10km以上ある生徒の保護者に対し、年額25,000円の通学費を助成した。		
	二本松地域	7名	175千円
	安達地域	0名	0千円
	岩代地域	57名	1,425千円
	東和地域	51名	1,275千円
	計	115名	2,875千円

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	評価結果なし				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	事業実施にあたっては、広報やウェブサイトによる周知だけではなく、中学3年生(4月に高校1年生になる生徒)に対し、卒業前に学校を通して事前に制度について周知することで制度の浸透を図った。なお、利用者数は、年々減少している。				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	助成制度については継続して実施し、保護者の経済的負担の軽減を図る。また、広報や学校を通じた案内なども継続して行い、より一層の制度の浸透に努める。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(5)-①

事務事業名	(福島県)特別支援学校整備事業				
担当課	教育総務課	担当係	文教施設係	事業開始年度	R03

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(5) 多様なニーズに対応した教育機会の提供

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	子どもたちが快適に学べる学習環境を整えるため、建設予定地における敷地造成等を行う。(安達地区等の児童生徒の通学の負担を軽減するとともに、安達地区の特別支援教育の充実を図る観点から知的障がい通学制特別支援学校を設置し快適な学校生活を送るための施設整備を図る。)
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	学校施設整備に伴う敷地造成工事に伴う実施設計等を行った。 ・安達地方特別支援学校敷地造成・・・(実施設計)25,146千円 ・安達地方特別支援学校防災設計・・・(防災設計)10,560千円
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	特別支援学校敷地の造成等					指標の単位	%
指標の説明	学校の敷地造成等工事						
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値	20.0	100.0					
実績値	20.0						
達成度(%)	100.0						
指標名②						指標の単位	
指標の説明							
	R03	R04	R05	R06	R07		
目標値							
実績値							
達成度(%)							
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり						
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった						
【説明】	計画通り年度内完了した。					所管課評価	
						A	

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	特別支援学校整備事業において、当市は敷地造成及び進入路新設工事を進めていくとする。 校舎建設工事については、福島県で施工するため当該地の引き渡しを早期に進める。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

3-(5)-②

事務事業名	児童生徒の介助員の配置				
担当課	学校教育課	担当係	指導係	事業開始年度	H19

1. 事業概要

基本方針	3. 教育環境の整備・充実と学びのセーフティネットを構築します。
基本施策	(5) 多様なニーズに対応した教育機会の提供

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	増加傾向にある障がいのある児童生徒及び特別な支援を必要とする児童生徒の学習環境を保障する支援を行い、共に学ぶ環境を整備するために、学校のニーズに応じて介助員を配置し、自立と社会参加の促進を図る。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	介助を必要とする児童生徒のために、小学校に26名、中学校に9名の介助員を配置し、児童生徒の学びや生活の自立について支援を行った。 (R03事業費: 小39,288千円、中12,696千円)
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	相当程度進展あり				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	特別な支援が必要な児童生徒に対して、細やかな支援がなされ、授業に集中して取り組む児童生徒が増えた。学校のニーズも年々増加しており、より多様な障がい特性のある児童生徒への適切な支援が要求されている。特別支援学級に在籍している児童生徒の交流及び共同学習のため、通常の学級にいった際に、通常の学級に在籍している児童生徒への支援も併せて行い、集団の中で共に学ぶ環境を充実させている。				所管課評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	特別支援学級「適」と判断された児童生徒も通常学級に在籍するなど、通常学級においても特別な支援を必要とする児童生徒が年々増えている。令和4年度から、そだちの教室(通級指導教室)を設置して、自ら改善・克服する力を養う場を構築したところである。特別支援学級に在籍する支援の必要な児童生徒が、介助員による適切な支援により、一人一人がその力を発揮でき、よりよい人間関係が醸成されるなど、共に学ぶ環境づくりが促進されつつある。今後も、介助員配置の必要性が高まっていることから、十分に子ども達の学びを保障する上で、増員も含め適切な介助員の配置を継続し、インクルーシブ教育システムの充実を図っていきたい。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

4-(3)-②

事務事業名	「子ども読書活動推進計画」の推進				
担当課	生涯学習課	担当係	生涯学習係	事業開始年度	平成23年

1. 事業概要

基本方針	4. いつでも、どこでも、だれでも自ら学び続ける生涯学習を推進します。
基本施策	(3) 図書館利用環境の整備

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	令和2年度に策定した第3期子ども読書活動推進計画に基づき、図書館や家庭での読書環境の整備と充実を図ることで、子どもたちに読書の楽しさや大切さを実感させ、読書習慣を身に付けてもらう。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<p>幼児に読書に対する興味を持たせるため、毎月のおはなし会や「としょかんまつり」等の催しのほか「子ども司書講座」を開催した。また、幼児期の親子に対する読書振興と図書館・図書室の利用促進を図るため、「ブックステップ事業」では、3歳児及び4歳児に絵本を配付した。</p> <p>【事業費】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師謝礼(おはなし会等出演謝礼) 155千円 行事用消耗品費(材料代、配布用絵本代) 645千円 郵券代(相互貸借資料送付用) 5千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	市立図書館貸出冊数			指標の単位	冊
指標の説明	市立図書館・公民館図書室貸出冊数(人口1人当たり年間)				
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値	4.15	4.20	4.25	4.30	4.35
実績値	4.06				
達成度(%)	97.8%				
指標名②	指標の単位				
指標の説明					
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値					
実績値					
達成度(%)					
【目標に対する進捗状況】	目標達成				
【費用対効果】	費用に対して十分な効果があった				
【説明】	各催事で図書館等の利用案内や読書活動のPRを行図書館の総貸出冊数については前年より増加した。(総貸出数 R2年度:185,407冊→R3年度:214,341冊)(うち児童書数 R2年度:102,391冊→R3年度:120,921冊) ブックステップ事業で3・4歳児に絵本を配付したが配付率は3歳児で71.7%、4歳児で73.3%であった。				所管課評価
					B

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	原状のまま継続
【説明】	引き続き図書館等での催しを開催することで、多くの子どもたちが読書に親しむ機会を提供する。また、ブックステップ事業では、配付率を高めるための方策を検討しながら引き続き絵本の配付を行う。さらには保護者向けの読み聞かせ講座等、幼児期の更なる読書振興図るとともに、絵本の配付対象年齢のを拡大も検討していく。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

5-(2)-②

事務事業名	総合型地域スポーツクラブの活動支援				
担当課	生涯学習課	担当係	スポーツ推進係	事業開始年度	

1. 事業概要

基本方針	5. 様々なスポーツ活動を推進し生涯スポーツの振興を図ります。
基本施策	(2) スポーツ活動の推進

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市内の子どもから高齢者までを対象として、多くの市民が気軽に参加できるクラブ運営を目標として、市民の健康づくりと生涯スポーツの振興を実現する。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	市内5クラブ(にほんまつ城山クラブ、岳クラブ、あだちスポーツクラブ、いわしろふれあいスポーツクラブ、東和さわやかスポーツクラブ)への助成を行うとともに、自主事業運営への支援を行った。 ・総合型地域スポーツクラブ補助金 8,315千円(各クラブ1,663千円)
----------------------------	--

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	クラブ加入者の増加と自主運営				指標の単位	人
指標の説明	クラブ加入者の増加と自主運営					
	R03	R04	R05	R06	R07	
目標値	1,600	1,650	1,700	1,750	1,800	
実績値	1,356					
達成度(%)	84.8%					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない					
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった					
【説明】	各クラブが、創意工夫をしながら活動プログラムを実施し、多くの市民が参加できる健康づくりと生涯スポーツを推進した。 R3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあるが、いずれのクラブも会員数が減少しており、特に高校生から青年層(29歳まで)の会員が少ないことから、この年代の会員を獲得するための工夫が必要。					所管課評価
						C

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	健康寿命の延伸を目指す年代の会員数は多いことから、その年代向けの事業は引き続き推進していくとともに、会員数が少ない年齢層をターゲットにした事業、家族会員増に向けた事業等の展開が図れるよう支援していくとともに、市やスポーツ協会、スポーツ推進委員、さらには各クラブとの連携強化が図れるような体制づくりを支援していく。 また、自主運営を推進していくため、全クラブの法人化に向け、既に法人化しているクラブ(いわしろ・にほんまつ)と協力し、指導していく。スポーツ推進委員との事業連携や市事業との共催など、有機的連携を図りながら市全体のスポーツ実施率の向上を図る。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

6-(1)-②

事務事業名	二本松城跡調査事業				
担当課	文化課	担当係	文化振興係	事業開始年度	H2

1. 事業概要

基本方針	6. 文化財の保護や活用、先人の顕彰等を通じて、二本松市全体及び各地域の伝統や歴史的背景を認識し、誇りの持てるよりよいふるさとの創造を図ります。
基本施策	(1) 地域文化財保護・継承

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	市民の誇りである史跡二本松城跡の発掘等の調査を進め、その成果を市民に公開することで二本松城に対する関心を高めていただき、二本松城の保存・活用について考えていただく機会を提供する。このことは、史跡二本松城跡を通じた郷土愛の涵養や豊かな地域づくりに繋がる。
-----------------	--

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 史跡二本松城跡保存活用計画策定業務 2,945千円 ○ 二本松城跡CG制作業務 9,922千円 ○ 二本松城跡測量設計業務 11,770千円 ○ 二本松城跡発掘出土遺物調査等業務 11,965千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	二本松城関連資料展示施設の入館者数				指標の単位	人
指標の説明	二本松城関連に関心を持つ方の人数					
	R03(資料館)	R04(歴史館)	R05	R06	R07	
目標値	3,000	50,000	51,000	52,000	53,000	
実績値	2,414					
達成度(%)	80.5					
指標名②	発掘調査現地説明会の参加者数				指標の単位	1回あたりの人数
指標の説明	二本松城関連に関心を持つ方の人数					
	R03	R04	R05	R06	R07	
目標値	-	100	150	150	150	
実績値	-					
達成度(%)	-					
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない					
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった					
【説明】	二本松城の発掘調査は31次を数え、その都度発掘現場の現地説明会や報告書により成果を公表してきた。事業目標の数値化が困難であるため、展示施設の入館者数及び現地説明会の参加者数を指標としたものである。二本松歴史資料館では入館目標値は設定していなかったため、令和2年度の入館者実績2,928人であったことから令和3年度の目標値を3,000人とした。コロナ禍の中であったが、極端な入館減はなかった。 令和4年度以降は二本松歴史館が開館したことにより、目標値が変わる。なお、令和3年度は発掘調査を行わなかったため現地説明会は開催していない。				所管課評価	
					B	

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	拡大
【説明】	にほんまつ城報館「二本松歴史館」で、魅力的な展示企画や学習企画を継続して行い、市民の二本松城に対する関心をより一層高めるように努めるが、多くの方に足を運んでいただく方策として、観光事業や他の施設との連携を強化していくようにする。 二本松城は市民全体の宝であるがゆえに、今後のありかた(保存や活用等)についても市民本位で考えていかなければならないということを啓発していくことが必要である。

主要事業の点検・評価

評価シート

シートNo.

7-(4)-①

事務事業名	文化団体の活動支援・文化団体の育成				
担当課	文化課	担当係	文化振興係	事業開始年度	平成10年度

1. 事業概要

基本方針	7. 市民の豊かな人生形成を支えるため、文化芸術の充実を図ります。
基本施策	(4) 文化団体の活動支援

2. 事業の目標と成果【PLAN(計画)】

事務事業の目標と見込まれる成果	芸術文化活動団体、伝統芸能保存団体の運営や活動を財政的・事務的に支援することにより、活動に勤しむ方々の人数を維持、増加させる。個人的な生きがいづくり、及び地域連携の促進に資することで、住んでよかったと思われる町づくりの一助となる。
-----------------	---

3. 実施内容【DO(実行)】

取組内容 (評価対象年度の事業内容、事業費等)	<ul style="list-style-type: none"> ○文化団体育成等補助等 2,960千円 ・市文化団体連合会事業補助 1,000千円 ・市民音楽フェスティバル共催補助 709千円 ・にほんまつ伝統芸能祭共催補助 10千円 ・芸術鑑賞実行委員会事業補助 357千円 ・無形民俗文化財保存団体伝承活動奨励金 884千円
----------------------------	---

4. 事業の分析【CHECK(評価)】

指標名①	市民音楽フェスティバル参加団体数			指標の単位	団体
指標の説明	毎年開催する市民音楽フェスティバルの参加団体数				
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値	23	23	23	23	23
実績値	17				
達成度(%)	73.9				
指標名②	各地区(4地域)文化団体連絡協議会加盟団体数			指標の単位	団体
指標の説明	現に活動を維持する団体数				
	R03	R04	R05	R06	R07
目標値	142	130	130	130	130
実績値	130				
達成度(%)	91.5				
【目標に対する進捗状況】	進展が大きくない				
【費用対効果】	費用に対して効果はあったが課題もあった				
【説明】	<p>令和3年度の市民音楽フェスティバルは、コロナ禍につき無観客で開催し撮影した映像を配信することで実施した。コロナ禍の中でも安易に中止せず、でき得る最良の方策をとったことで、参加団体もある程度確保することができ、参加団体からは好評であった。なお、音フェス参加団体については目標値を定めていないので、前回(H元)の実績23団体を目標値とした。</p> <p>各地区文化団体の現状として、高齢化も相まって活動維持が困難な状況にある。なお、団体数についても目標値は定めていないので、令和2年度実績の142団体を目標値とした。</p>				所管課評価
					A

5. 今後の方向性【ACTION(改善)】

【事業の方向性】	見直して継続
【説明】	<p>少子高齢化と地方の過疎化は全国的な社会現象であり、このことが団体機能低下の直接的な要因の一つであることが否めない以上、目標達成のためには今までは異なった視点での支援が求められると考えている。</p> <p>少子化であるからこそ、小中学校との連携等で若年層の活動参加機会の提供を今以上に充実させ、自己の人生形成の一助としてもらい、さらには次代の担い手としての自覚を促していくことが求められていると思われる。</p>

Ⅲ 学識経験者の意見

令和3年度二本松市教育委員会の教育行政は、令和2年度に策定された「第2期二本松市教育振興基本計画」推進の初年度であり、この計画は、令和12年度までを計画期間とし各種教育施策の実現に向けて策定されたものである。教育行政の課題が山積している中であって、本市の実状を踏まえ、児童生徒、市民のための施策及び事業の充実に努めていることに敬意を表する。

教育行政の推進に当たっては、その時々的情勢の変化や、国県の施策等にも柔軟に対応させるため、適時・適切に計画の内容の見直しや新たな取組の検討が求められるものである。また、新型コロナウイルス感染症への対応が大きな課題となっており、すべての児童生徒が安心して学べる環境をどう構築していくのか、従来にも増して教育行政を推進する上で大変大きな課題である。今後とも関係機関と連携のもと、事業点検と改善に取り組むことが求められている。

今回の「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」（以下、「教育事務点検評価」）については、初年度となる「第2期二本松市教育振興基本計画」に則り、各事業を誠実かつ適切に展開している姿が伺えた。

一方で、教育事務点検評価については、教育委員会として議会への報告、市民へ広く公表することをとおして説明責任を果たすことが求められている。そのため、事業推進のプロセスや成果、課題等についてより一層分かりやすくするために評価がしやすい指標名や目標値の設定、グラフ等により可視化する工夫が必要と思われる。引き続き、市民、地域、学校との連携のもと、事業点検と改善に取り組むことを期待するものである。

以下、各課について総括的意見を述べる。

① 学校教育課

学校教育課所管事業の中にあって、主体的・対話的で深い学び等の実現に向けた教育活動の質と内容の充実のためには、学習環境の整備や児童生徒の学力の実態分析とともに継続した教職員の指導力、管理職のマネジメント力の向上が重要である。

学習環境においては、児童生徒1人1台のタブレット端末や高速大容量通信ネットワーク、電子黒板等、学校内におけるICT環境は大変充実している。今後はコロナ禍におけるネットワークを活用した学習の在り方や教職員の研修の方法等、実施方法を工夫しながら

らの研究推進と整備されたICT機器を有効に活用されることを期待する。また、一人一人の確かな学力を保証するために学力向上非常勤講師を配置し、さらに教科専門（理科）の非常勤講師の配置など学力向上のため手厚い事業を実施していることは高く評価される。今後も各学校での主体的分析と課題把握に努め、より効果的な指導と学力向上マネジメントへの活用を望むものである。

「元気な児童生徒育成支援事業」は、地域の自然との関わりの深いスキー教室を実施するという点については、地域で体験できるスポーツを楽しむ行事として意義はある。今後の事業実施にあたっては、関係機関との連携のもと事業の見直し等も含めた検討を望むものである。1日だけの実施では、スポーツ本来の資質等を養うまでに至らず、また肥満解消に役立つとは思えないためである。

現在、児童生徒を取り巻く生徒指導上の諸問題は複雑化・多様化している。今後も必要な人材の配置とともに、教育関係や福祉関係等が一体となった取組の推進を期待するものである。

② 教育総務課

教育総務課所管の事業の多くは、安全で安心な教育環境の整備、充実等を目指すものであり、短期的な対応と共に長期的な視点に立って事業を推進することが求められる。

学校施設等については長寿命化計画に基づいて、今後も安全で快適な学校生活を送るための事業が計画的に推進されている。今後も事業推進のための予算確保や関係部署との連携を重視した取組を期待する。

「学校給食と食育の推進」は、子どもたちの健やかな成長のために大変重要な事業である。評価に使用された指標のみでは事業内容を十分理解されない恐れがあるため、次年度以降については、栄養教諭等が学校で行った食育授業等についても補足資料として作成されることを望むものである。

③ 生涯学習課

生涯学習課所管事業の運営に当たっては、事業推進のためには、市民の方々の参加やボランティアの協力が不可欠な要素である。コロナ禍にあっても各事業を実施するに当たっては、より多くの市民の方々の参加やボランティアの協力ができるような方法を検討いただき、できる限り事業が継続して開催されることを望むものである。

『「子ども読書活動推進計画」の推進』では、コロナ禍において図書館の総貸出数が前年度よりも増加したことは、評価されるべきである。また、移動図書館の活用や「ブック

ステップ事業」などにより読書に親しむ機会を提供するなど、読書環境の整備・充実を図っている。コロナ禍にはあるものの今後も読書振興と図書館の利用促進のために可能な限りの工夫と努力をいただき、各事業の発展的な継続を期待するものである。

④ 文化課

文化課所管事業は、文化芸術の振興に寄与し、また市民の故郷への自信と誇り、地域を愛する心情の育成と市の活性化をもたらす重要な要素である。

「二本松城跡調査事業」には、多くの市民が関心を寄せており、市民の宝として全国への情報発信をしながら調査と活用を進めていただき、今後も学術調査研究の成果を基に当事業を発展的に継続されることを期待するものである。また、市文化財の調査研究を担うのが、その保存と活用に関する高度な知識と技術を習得している専門職員（学芸員）である。今後とも後継世代の知識や経験に断絶が生じないよう計画的な採用と育成が重要である。

「文化団体の活動支援・文化団体の育成」は、年々運営が困難になっている各文化財保存団体への活動助成や保存修理等補助であり、重要で効果的な施策であることから、事業対象や支援の拡大についても検討を望むものである。また、地域の伝統芸能の「継承」のためには後継者育成が大きな課題となっているため、若い世代を中心とした担い手の育成など将来を見据えての計画的な取組が望まれる。

⑤ 子育て支援課

子育て支援課所管事業は、教育委員会の補助執行機関として、引き続き公立幼稚園の教育環境の整備・充実と適正配置に努めていただきたい。

令和4年9月30日

二本松市教育事務点検評価検証委員

佐藤 彰 男

村松 香 里

青田 誠

日下部 善 己